

阿部 秀夫（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

日本語能力試験N1合格レベルの学生で、本学の一般授業を履修する学生を対象としており、履修者は9名である。本科目は1週間に1コマ（90分）だが、「文章表現」とは別に「アカデミック日本語（口頭表現）」が1コマ（90分）開講されている。「文章表現」クラスでは、論文的文章（以下、小論文）を執筆することを目標とする。執筆に当たってはテーマの資料・参考図書を検索し、使用することを義務づけているが、インタビュー、アンケートは要求しない。

小論文のテーマは「口頭表現」のディベートのテーマあるいは自由テーマとしている。授業冒頭のオリエンテーションでは資料を探すなどの手間を考慮に入れば、ディベートと同一テーマの方がいいとは伝えてはいるが、今回は、全員、独自のテーマとなった。テキストは『大学生のためのレポート・論文の書き方』（ナツメ社）を使用した。

2. 授業内容

論文や小論文を執筆した経験がある学生と、全く初めてという学生が混在する。「書く」ことに関しては、ある程度できるので、まずは文体の意識を持たせるとともに、全体の構成をイメージするように意識させた。併行的に、テーマの選択、資料の収集も行わせた。学習内容・学習表現は①文体②引用③参考文献リスト④序論部分⑤本文部分⑥結論部分⑦グラフ・表の説明、である。提出される最終稿の小論文の枚数に関しては特に制限を設けていない。なお、宿題として提出された文章は、学生全員が読み、皆で改善点や良いところを共有した。

3. 成果と今後の課題

全員が小論文のイメージがつかめたと述べていた。また、小論文を書くのは難しくなかったと述べた学生は1名で、他は難しさを述べていた。他に、有用で満足できたという声もあった。前学期はほぼ全員、ディベートと同一テーマであったが、既述の通り今回は異なるテーマであった。小論文を読む人間としては内容的に興味深いことになるが、小論文執筆者からは異なるテーマにしたことは時間的・労力的に大変で、後悔しているという声もあった。今後は、テーマ選び、資料選びをさらに重視し、良い小論文が書けるようにアドバイスしていきたいと思っている。